

日本経済・関西経済の現況と予測

第158回 景気分析と予測
&

Kansai Economic Insight Quarterly No.79

2026年5月27日

アジア太平洋研究所 マクロ経済分析プロジェクト

稲田 義久

入江 啓彰

Outline

Executive summary

p.3

1. 「第158回 景気分析と予測」の概要

- 景気の概況

p.5-9

- 予測結果の解説

p.10-17

2. 「Kansai Economic Insight Quarterly No.79」の概要

- 予測の要旨及び関西経済の現況

p.19-26

- 予測結果の解説

p.27-29

3. トピックス

- 関西2府4県GRP早期推計

p.30

- 原油価格急騰による日本経済及び関西経済への影響

p.31-35

【日本経済予測の要旨】**不確実性高まる中東情勢悪化の影響**

-実質GDP成長率予測：26年度+0.5%、27年度+1.0%-

【関西経済予測の要旨】**緩やかな成長が続くも、先行きに強い不透明感**

-物価高や中東情勢の悪化など下振れリスクへの警戒強まる-

【参考】 前回予測(3月)の要旨

- 日本経済「重要なのは賃金物価の好循環に資する供給サイドの政策」
- 関西経済「緩やかな持ち直し局面が続く関西経済-回復の勢いはなお限定的、外需動向と政策効果に不確実性-」

第158回 景気分析と予測 日本経済予測資料

マクロ経済分析プロジェクト Contributors

APIR研究統括兼数量経済分析センター長・

甲南大学経済学部名誉教授 稲田義久

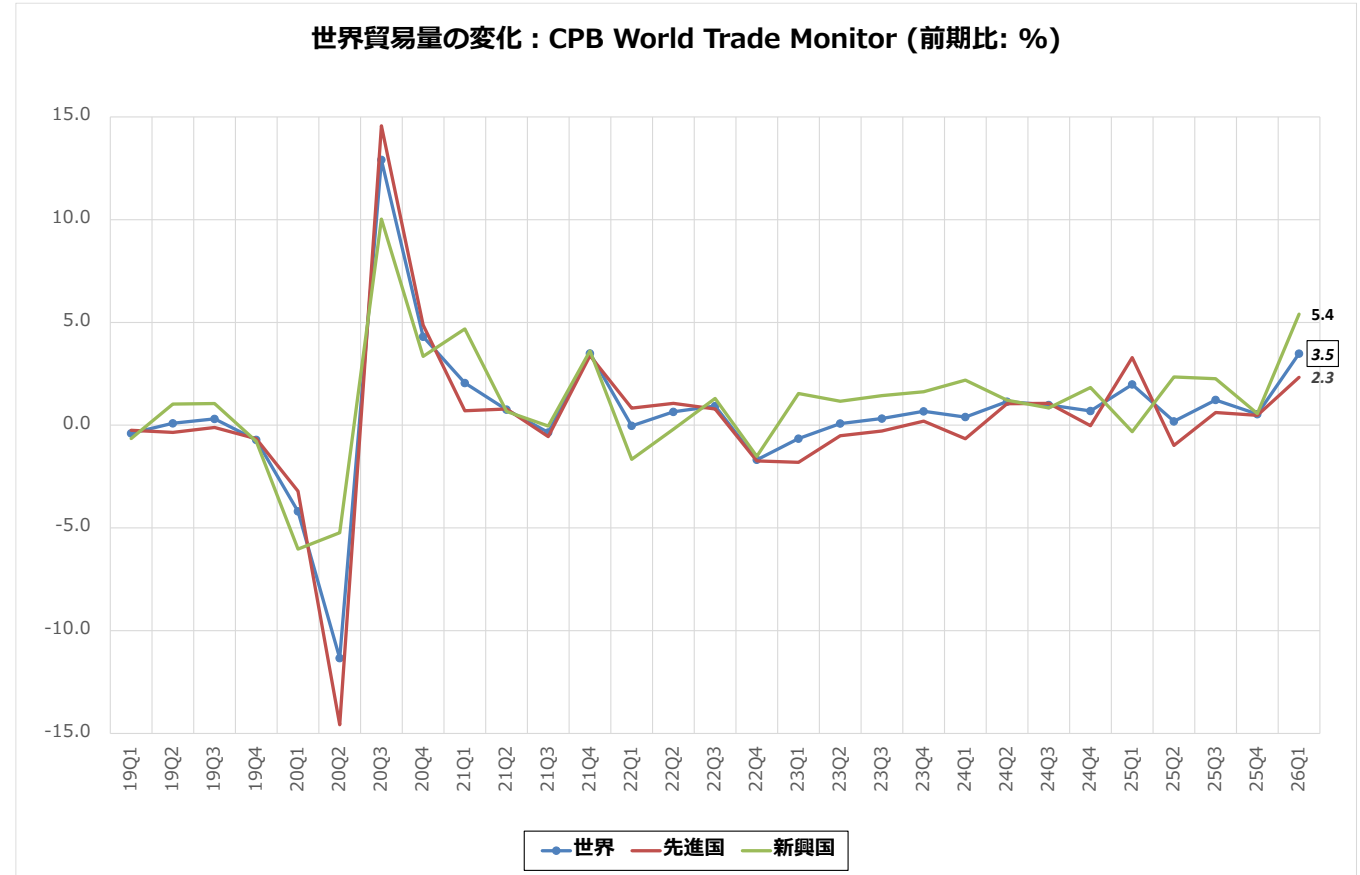
日本アプライドリサーチ研究所主幹研究員 下田充



【QRコードより
本予測説明動画が視聴可能予定】

世界貿易は中国の輸出急増で再び拡大

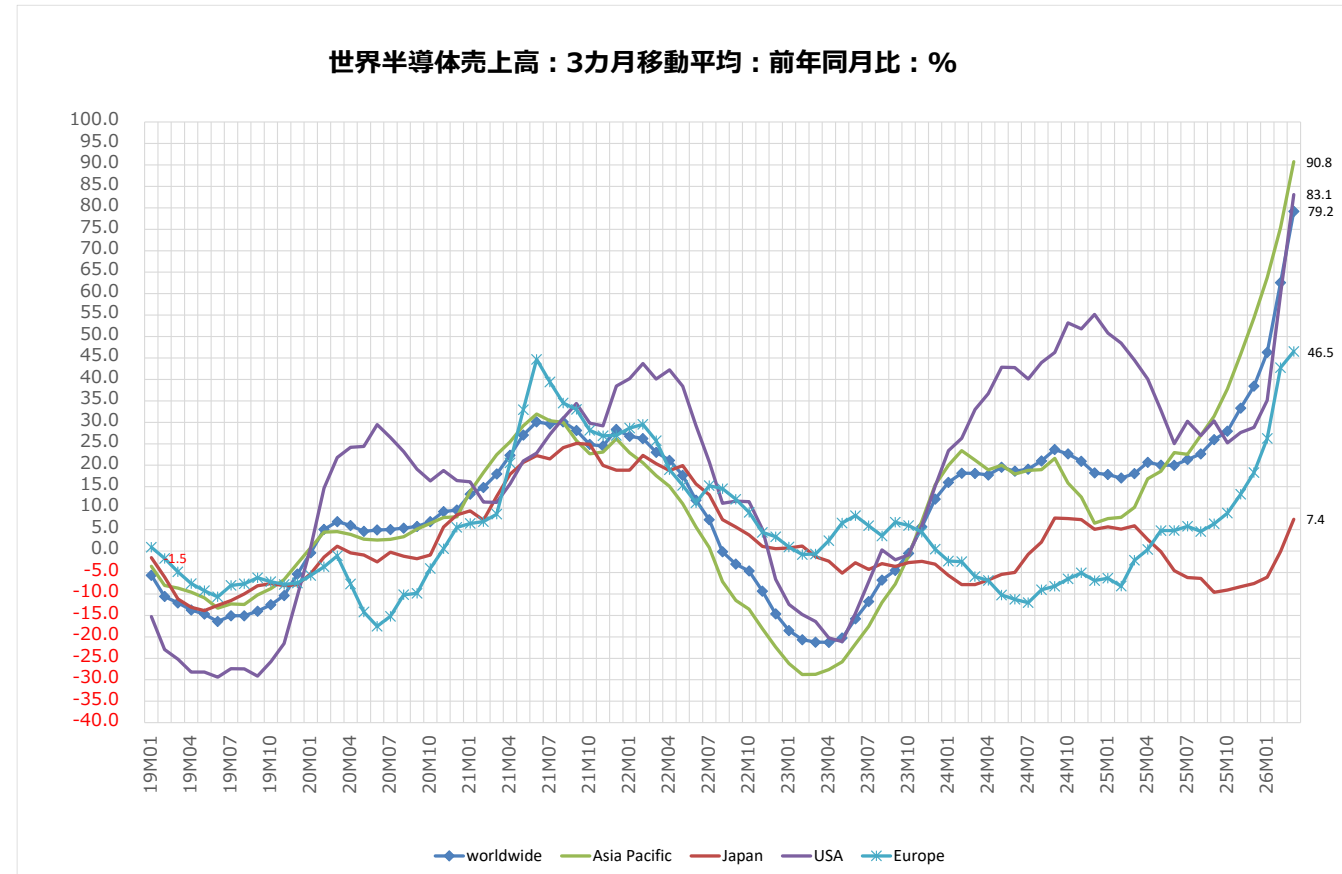
- **25年の世界貿易(数量ベース)は駆け込み需要(1-3月期：前期比+2.0%)から減速停滞(4-6月期：同+0.2%、7-9月期：同+1.2%、10-12月期：同+0.5%)を経て**
- **26年3月は前月比-2.1%と5カ月ぶりの低下だが1-3月期は前期比+3.5%と再び加速**
- **1-3月期を地域別にみれば、先進国は前期比+2.3%と三四半期連続の上昇、新興国は同+5.4%と4四半期連続の上昇。新興国のうち特に**中国の伸び(+14.6%)**が突出している。**



出所：CPB World Trade Monitor, March 2026

AI需要が支える世界半導体売上は絶好調

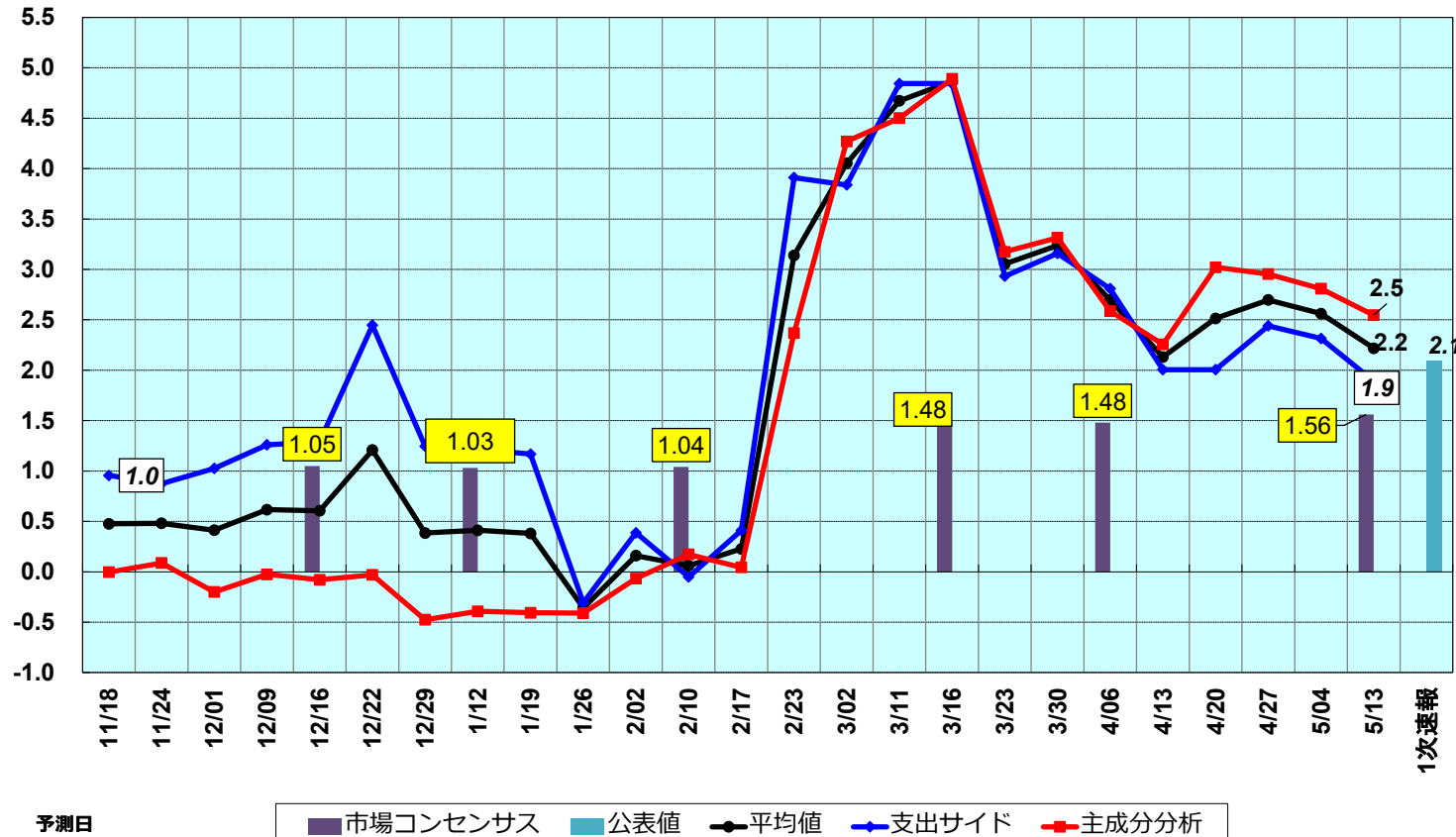
- 26年3月の世界半導体売上高は前年同月比+79.2%と**29カ月連続のプラス**、また28カ月連続で二桁の伸びを記録
- 地域別にみれば、**米国**は+83.1%、**アジア**は+90.8%とともに29カ月連続のプラス。**アジアの貿易好調の背景には半導体輸出の急増**。ヨーロッパは+46.5%と12カ月連続の増加。日本は+7.4%と9カ月ぶりの増加に転じた
- **4-6月期日本の機械受注(外需)**は前期比-8.1%と4四半期ぶりの減少を見込むが、海外資本財市場の先行きは堅調な動き



出所：World Semiconductor Trade Statistics, March 2026

1-3月期超短期予測の動態：実質GDP成長率

超短期予測の動態：実質GDP成長率、2026Q1(前期比年率：%)



- 5月19日発表のGDP1次速報によれば、1-3月期の実質GDPは前期比+0.5%、同年率+2.1%と2四半期連続のプラス成長となった
- 1次速報の結果は市場コンセンサス(ESPフォーキャスト5月調査：前期比年率+1.56%)から幾分上振れたが、CQMの平均最終予測(同+2.2%)とはほぼピンポイント。うち、支出サイドは同+1.9%、生産サイドは同+2.5%

本予測はペンシルバニア大学クライン名誉教授によって開発された超短期モデル(Current Quarter Model)のアイデアを日本経済に適用したものである。本予測システムでは、毎週発表されたデータの景気への影響を調べることができる。予測は支出サイド、生産サイド(主成分分析)の2つのモデルを用いて行われ、前者の予測値を主要系列とし、後者の予測値と両モデルの予測平均値を参考系列としている

出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

1-3月期:実質GDPは2四半期連続のプラス成長

実質GDPと項目の成長率及び寄与度(前期比、%、%ポイント)

	GDP年率	GDP	国内需要	民間需要	民間最終消費支出	民間住宅	民間企業設備	民間在庫変動	公的需要	政府最終消費	公的固定資本形成	公的在庫変動	純輸出	輸出	輸入	GDI
22Q1	-1.3	-0.3	-0.3	-0.1	-0.4	0.0	0.2	0.1	-0.2	0.1	-0.3	0.0	-0.1	0.7	-0.7	-0.8
22Q2	3.7	0.9	1.1	0.9	0.8	0.0	0.4	-0.2	0.1	0.2	-0.1	0.0	-0.1	0.1	-0.3	0.2
22Q3	-1.5	-0.4	0.2	0.4	0.0	0.1	0.2	0.1	-0.2	-0.1	0.0	-0.1	-0.6	0.3	-0.9	-0.9
22Q4	1.9	0.5	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	-0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.8
23Q1	3.3	0.8	0.7	0.4	0.3	0.0	0.2	-0.2	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	-0.2	0.4	1.2
23Q2	0.3	0.1	-1.1	-0.7	-0.5	0.1	-0.3	0.0	-0.4	-0.3	-0.1	-0.1	1.2	0.3	0.9	0.9
23Q3	-5.4	-1.4	-1.3	-1.2	-0.4	-0.1	-0.1	-0.7	-0.1	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.3	-0.3	-1.1
23Q4	2.2	0.6	0.7	0.7	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	0.5	-0.7	0.4
24Q1	-1.4	-0.3	-0.5	-0.5	-0.1	-0.1	-0.4	0.0	0.0	0.1	-0.1	0.0	0.2	-0.6	0.8	-0.4
24Q2	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	-0.1	0.5	0.4	0.1	0.0	-0.5	0.2	-0.6	0.4
24Q3	2.7	0.7	0.9	0.8	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	-0.2	0.5	-0.7	0.8
24Q4	1.5	0.4	-0.4	-0.4	0.0	0.0	-0.1	-0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	0.4	0.4
25Q1	1.8	0.4	1.1	1.1	0.3	0.0	0.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.6	-0.1	-0.5	0.2
25Q2	1.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	-0.3	0.9
25Q3	-2.5	-0.6	-0.3	-0.3	0.3	-0.3	0.0	-0.2	0.0	0.0	-0.1	0.0	-0.3	-0.4	0.0	-0.4
25Q4	0.8	0.2	0.2	0.1	0.0	0.2	0.3	-0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
26Q1	2.1	0.5	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	-0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.3	0.4	-0.1	0.4

注：国内需要、民間需要、公的需要、在庫変動と純輸出は寄与度。出所：内閣府『国民経済計算』よりAPIR作成

- 1-3月期の実質GDP成長率(前期比+0.5%)への寄与度を見ると、国内需要は同+0.2%ポイントと2四半期連続、純輸出は同+0.3%ポイントと2四半期連続のプラス寄与
- 注目すべきは、交易条件の悪化により実質GDIは実質GDPの伸びを4四半期ぶりに下回った。先行きも交易条件の悪化が予想されるので、経済の下押し圧力が続こう

7四半期連続でコロナ禍前のピークを上回ったが・・・

(単位：2019年7-9月期=100)

	国内総生産	財貨輸入	サービス 輸入	民間最終 消費支出	民間資本 形成	政府支出	財貨輸出	サービ ス輸出	名目国内 総生産
19Q3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
22Q1	99.0	102.0	93.3	96.6	98.1	104.0	107.6	79.4	100.9
22Q2	99.9	104.1	92.9	98.1	98.7	104.5	107.1	84.5	101.4
22Q3	99.5	105.5	109.5	98.1	100.3	103.9	108.1	89.5	101.1
22Q4	100.0	106.7	104.8	98.4	99.6	105.1	108.0	94.1	103.2
23Q1	100.8	103.3	109.5	99.0	100.2	106.0	104.3	102.1	105.3
23Q2	100.9	98.8	108.9	98.0	99.5	104.5	105.1	106.5	107.3
23Q3	99.5	98.5	117.5	97.4	96.4	104.1	105.1	112.9	107.2
23Q4	100.1	102.7	115.3	97.3	99.3	104.0	105.6	123.6	108.4
24Q1	99.7	97.2	118.6	97.1	97.5	104.0	103.1	117.9	107.7
24Q2	99.7	99.3	124.8	97.1	97.6	106.0	102.2	125.5	109.9
24Q3	100.4	103.1	126.4	97.6	99.8	106.3	105.2	126.3	111.2
24Q4	100.8	100.5	126.5	97.5	98.3	106.2	105.7	132.8	112.4
25Q1	101.2	102.7	129.7	98.2	101.4	106.0	105.6	130.2	113.3
25Q2	101.6	104.2	129.7	98.3	101.6	106.5	107.1	133.4	115.6
25Q3	100.9	103.5	131.2	98.8	99.3	106.4	106.0	128.8	115.7
25Q4	101.1	102.8	133.7	98.9	99.8	106.7	105.5	131.9	116.7
26Q1	101.7	103.2	134.7	99.1	99.9	107.0	107.8	132.4	117.7

- 1-3月期の**実質GDP**は2四半期連続のプラス成長。**コロナ禍前のピークを7四半期連続で上回り+1.7%拡大。名目GDPは17四半期連続でコロナ禍前のピーク上回り+17.7%拡大した**
- 足下、**民間最終消費支出の回復は依然遅れている。民間資本形成は、7-9月期以降3四半期連続で再び下回った。民間需要の回復は依然コロナ禍前のピークを下回っている**

海外環境：外生変数の想定比較

外生変数	25年度	26年度	27年度
原油価格(\$/bbl)	68.38	87.99	75.53
前回	64.71	63.50	63.00
世界貿易量(%)	5.1	2.8	3.8
前回	4.1	2.6	3.1
為替レート(¥/\$)	150.7	156.5	151.5
前回	150.5	154.2	150.5

注：原油価格及び世界貿易量はIMFの想定(WEO April 2026)。
出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

【海外外生変数の想定】

- **原油価格**は、前回予測より26年24.5ドル、27年12.5ドル大幅上方修正
- **世界貿易量(IMF:WEO)**は、25年は駆け込み需要から1.0%上方修正、26年は+0.2%ポイント、27年は+0.7%ポイント上方修正
- **為替レート**は、25年度後半にかけて円安が急伸。以降、26年度から27年度にかけて、小幅の円高が進むと想定

世界貿易と世界GDP成長率:IMF予測の変化

World GDP	2025	2026	2027
April 2026 (Pre-conflict)	3.4	3.1 (3.4)	3.2 (3.2)
January 2026	3.3	3.3	3.2
October 2025	3.2	3.1	
July 2025	3.0	3.1	
April 2025	2.8	3.0	
January 2025	3.3	3.3	

World Trade Vol	2025	2026	2027
April 2026	5.1	2.8	3.8
January 2026	4.1	2.6	3.1
October 2025	3.6	2.3	
July 2025	2.6	1.9	
April 2025	1.7	2.5	
January 2025	3.2	3.3	

Pre-conflict forecast: 紛争勃発前に行った予測は、安定的な成長パターンを示している

Reference forecast: 戦争は早期に終息し、2026年央には生産や輸出は正常に戻ると想定

26-27年度予測：前回予測との比較

	今回 (2026/5/20)				前回 (2025/2/19)			
	2024	2025	2026	2027	2024	2025	2026	2027
実質国内総生産 (%)	0.5	0.8	0.5	1.0	0.5	0.7	0.9	1.3
民間需要 (寄与度)	0.4	0.8	0.6	0.8	0.4	0.9	0.8	1.1
民間最終消費支出 (%)	0.1	1.2	0.6	0.8	0.2	1.3	0.9	1.2
民間住宅 (%)	▲0.7	▲3.5	0.7	▲0.3	▲0.7	▲3.2	▲0.0	▲0.1
民間企業設備 (%)	0.8	2.4	1.6	1.8	0.8	1.5	2.2	2.6
民間在庫変動 (寄与度)	0.2	▲0.1	▲0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
公的需要 (寄与度)	0.5	0.1	0.2	0.2	0.5	▲0.0	0.1	0.2
政府最終消費支出 (%)	2.3	0.8	0.8	0.7	2.3	0.5	0.7	0.7
公的固定資本形成	0.1	▲0.6	1.5	1.1	0.1	▲1.9	▲0.8	1.2
公的在庫変動 (寄与度)	0.0	0.0	0.0	▲0.0	0.0	▲0.0	0.0	▲0.0
外需 (寄与度)	▲0.3	▲0.2	▲0.3	▲0.0	▲0.4	▲0.1	▲0.1	0.0
財貨サービスの輸出 (%)	2.7	1.9	▲0.3	2.1	1.6	2.1	1.3	2.4
財貨サービスの輸入 (%)	4.0	2.6	1.2	2.3	3.2	2.9	1.7	2.4
名目国内総生産 (%)	3.7	4.2	1.7	3.9	3.7	3.9	2.7	3.1
国内総生産デフレーター (%)	3.2	3.4	1.1	2.9	3.2	3.2	1.8	1.8
国内企業物価指数 (%)	3.4	2.7	8.0	1.7	3.4	2.7	1.9	1.1
消費者物価コア指数 (%)	2.6	2.8	2.4	2.4	2.6	2.8	1.8	1.9
鉱工業生産指数 (%)	▲1.5	▲0.2	0.4	1.1	▲1.4	0.9	0.9	1.3
住宅着工戸数：新設住宅 (%)	2.0	▲12.9	4.3	0.8	2.0	▲12.2	6.5	1.8
完全失業率 (%)	2.5	2.6	2.7	2.6	2.5	2.6	2.6	2.5
経常収支 (兆円)	30.0	34.5	17.2	20.4	29.5	31.5	32.3	32.3
対名目GDP比 (%)	4.7	5.2	2.5	2.9	4.6	4.7	4.7	4.6
原油価格 (ドル/バレル)	76.9	68.4	88.0	75.5	76.9	64.7	63.5	63.0
為替レート (円/ドル)	152.5	150.7	156.5	151.5	152.5	150.5	154.2	150.5
米国実質国内総生産 (%、暦年)	2.8	2.1	2.3	2.1	2.9	2.8	1.9	2.0

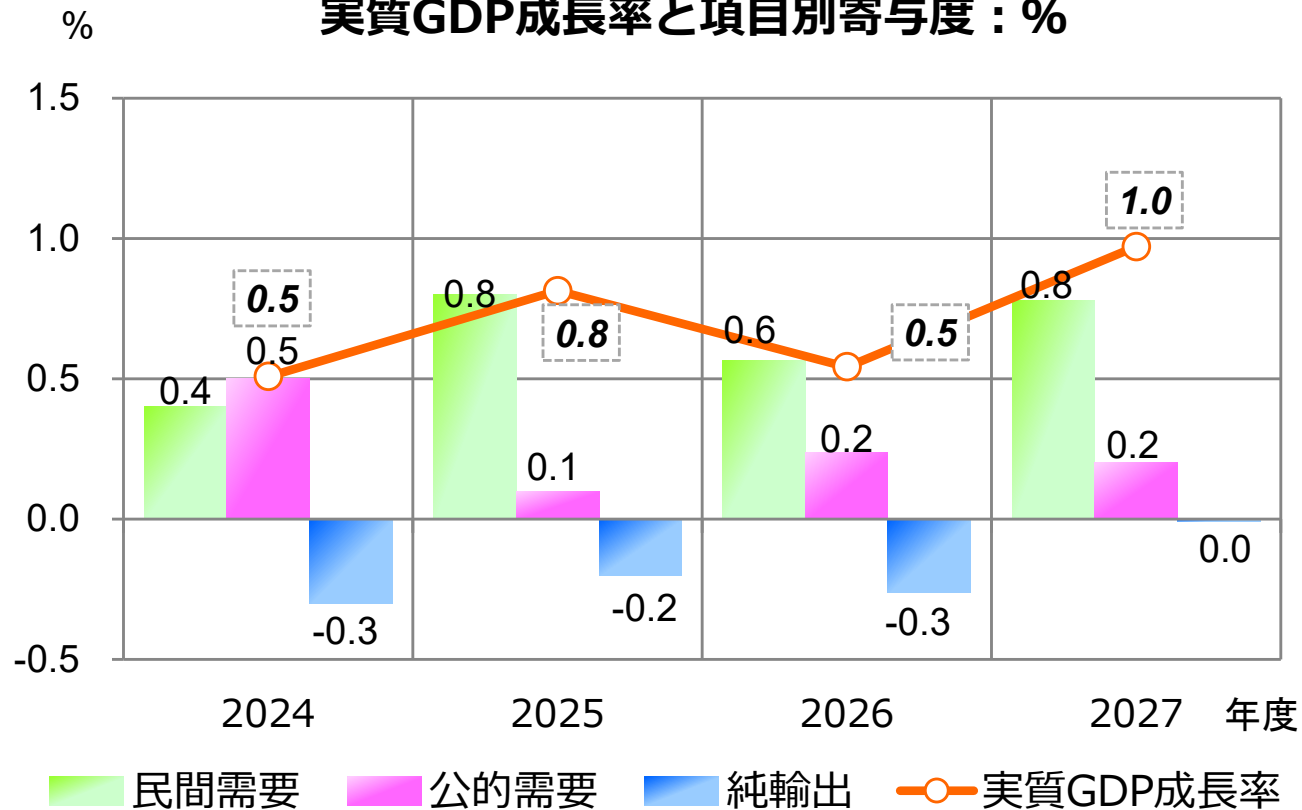
【前回予測からの修正幅】

- 1-3月期GDP1次速報と新たな外生変数の想定を織り込み、2026-27年度日本経済の見通しを改定した
- 結果、**実質GDP成長率を26年度+0.5%、27年度+1.0%と予測**
- 原油価格高騰の影響を反映して**26年度を前回予測から-0.4%ポイント、27年度を-0.3%ポイントいずれも下方修正した**

注：四捨五入の関係で、需要構成項目の修正幅を合計してもGDPの修正幅とは必ずしも合致しない。出所：APIR『第157回 景気分析と予測』

実質GDP成長率の予測と項目別寄与度

実質GDP成長率と項目別寄与度：%



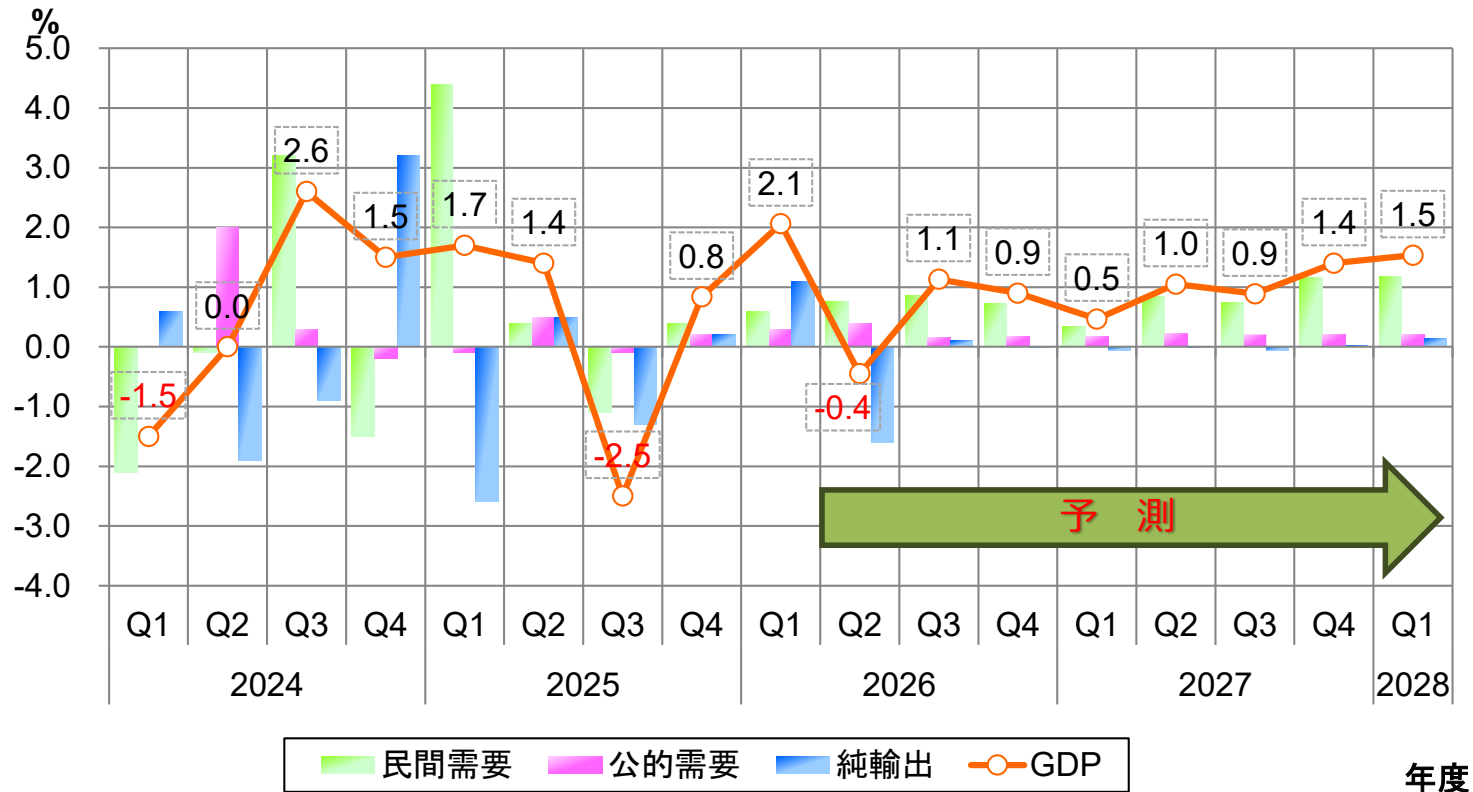
注：四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。
出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

【実質GDP成長率】

【項目別寄与度】

- 25年度実績：民間需要+0.8%ポイント、公的需要+0.1%ポイント、純輸出-0.2%ポイント
- 26年度予測：民間需要+0.6%ポイント、公的需要+0.2%ポイント、純輸出-0.3%ポイント
- 27年度予測：民間需要+0.8%ポイント、公的需要+0.2%ポイント、純輸出-0.0%ポイント
- 純輸出は景気押し上げに寄与しないため、**26-27年度の景気牽引役は民需に限定**

実質GDPを四半期ベースで見れば：実績と予測

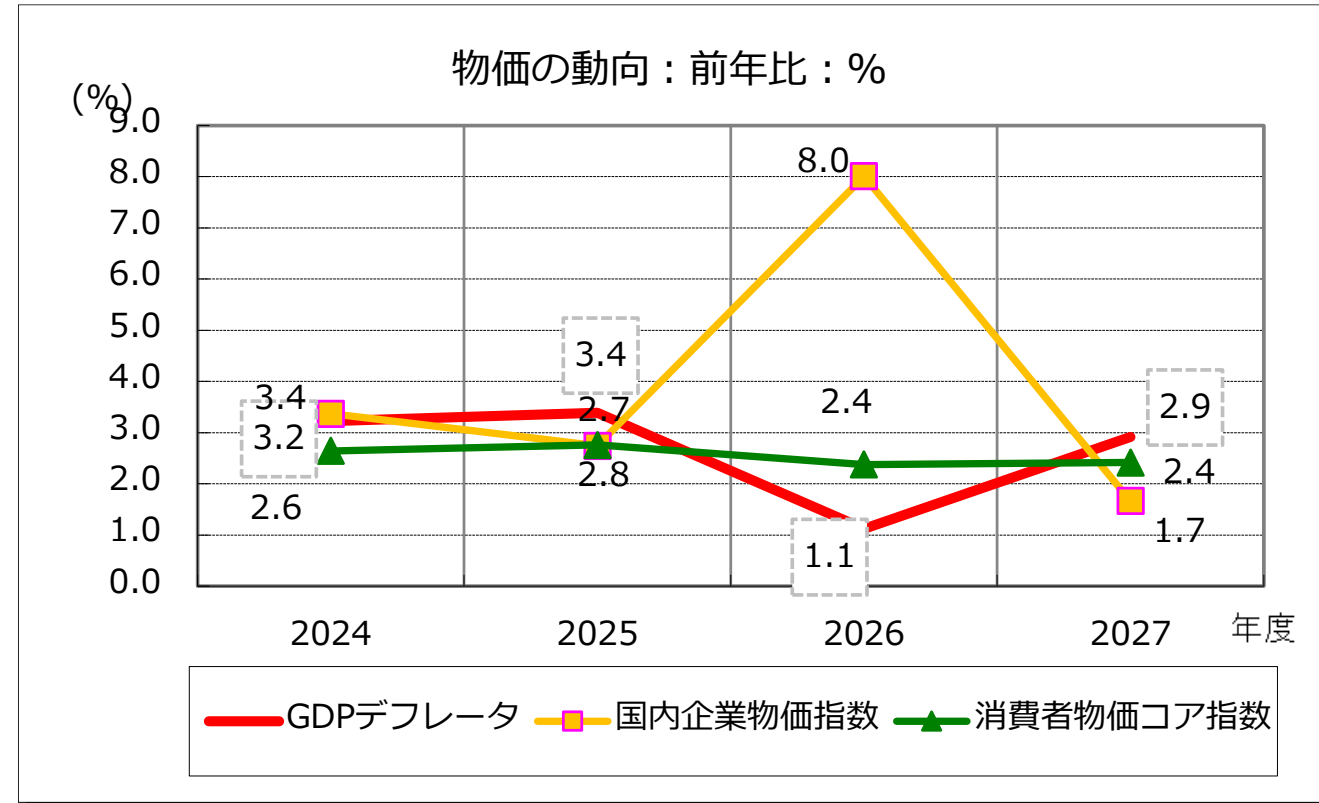


- 実質GDP成長率の四半期パターンを見れば、
- 2026年4-6月期にいったんマイナス成長に転じる
- 以降、26年度後半から27年度にかけては、民間最終消費支出と企業設備の民間需要を中心に潜在成長率を上回る回復が続く

出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

インフレーションの動態

- 原油価格高騰を反映し、消費者物価コア指数のインフレ率を26年度+2.4%、27年度+2.4%と予測
- 夏場の電気・都市ガス支援策を反映するが、輸入物価の上昇が幅広く他品目に波及する影響でインフレ率は2%を超える
- またGDPデフレーターは26年度+1.1%、27年度+2.9%



出所：APIR 『第158回 景気分析と予測』

日本経済予測結果表：四半期主要経済指標

	四半期												年度			
	25Q2	25Q3	25Q4	26Q1	26Q2	26Q3	26Q4	27Q1	27Q2	27Q3	27Q4	28Q1	2024	2025	2026	2027
実質国内総生産	593.1	589.4	590.7	593.7	593.0	594.7	596.0	596.7	598.3	599.6	601.7	604.0	587.1	591.9	595.1	600.9
兆円	0.3	-0.6	0.2	0.5	-0.1	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.4	0.5	0.8	0.5	1.0
	1.8	0.5	0.4	0.4	0.0	0.9	0.9	0.5	0.9	0.8	1.0	1.2				
名目国内総生産	665.0	665.4	671.7	677.2	662.3	683.0	684.9	694.5	698.6	704.9	709.7	718.2	642.8	670.0	681.2	707.8
兆円	2.0	0.1	0.9	0.8	-2.2	3.1	0.3	1.4	0.6	0.9	0.7	1.2	3.7	4.2	1.7	3.9
	5.2	4.0	3.8	3.9	-0.4	2.6	2.0	2.5	5.5	3.2	3.6	3.4				
GDPデフレーター	112.1	112.9	113.7	114.1	111.7	114.8	114.9	116.4	116.8	117.6	117.9	118.9	109.5	113.2	114.5	117.8
2020=100	1.7	0.7	0.7	0.3	-2.1	2.8	0.1	1.3	0.3	0.7	0.3	0.8	3.2	3.4	1.1	2.9
	3.3	3.5	3.4	3.4	-0.4	1.7	1.1	2.0	4.6	2.4	2.6	2.2				
鉱工業生産指数	101.3	100.2	100.5	103.0	101.9	101.4	101.4	101.7	102.0	102.5	103.0	103.5	101.4	101.2	101.6	102.8
2020=100	-0.5	-1.0	0.2	2.5	-1.0	-0.5	0.0	0.3	0.3	0.5	0.5	0.5	-1.5	-0.2	0.4	1.1
	0.1	-1.2	-1.3	1.2	0.6	1.2	0.9	-1.2	0.1	1.1	1.6	1.8				
住宅着工戸数：新設住宅	155	180	189	187	182	184	186	190	190	187	186	185	816	711	742	748
千戸	-28.5	16.0	5.1	-1.1	-2.8	1.4	0.8	2.6	-0.1	-1.9	-0.5	-0.2	2.0	-12.9	4.3	0.8
	-25.2	-9.0	-2.1	-13.8	17.1	2.4	-1.8	1.9	4.8	1.4	0.0	-2.7				
国内企業物価指数	126.5	126.7	127.9	128.9	135.2	138.2	138.4	139.1	138.9	139.6	140.2	141.3	124.1	127.5	137.7	140.0
2020=100	0.5	0.2	0.9	0.8	4.9	2.2	0.1	0.5	-0.1	0.5	0.4	0.8	3.4	2.7	8.0	1.7
	3.3	2.6	2.6	2.5	6.9	9.1	8.2	7.9	2.8	1.0	1.3	1.6				
消費者物価コア指数	111.2	111.5	112.3	111.8	113.2	113.9	114.8	115.5	116.6	117.1	117.4	117.4	108.7	111.7	114.4	117.1
2020=100	1.2	0.3	0.7	-0.4	1.2	0.6	0.8	0.6	0.9	0.4	0.3	0.0	2.6	2.8	2.4	2.1
	3.5	2.9	2.8	1.8	1.8	2.1	2.3	3.3	3.0	2.8	2.3	1.6				
一人当たり賃金	4391	4406	4439	4476	4488	4520	4553	4567	4601	4635	4661	4687	4310	4428	4532	4646
千円	1.3	0.3	0.7	0.8	0.3	0.7	0.7	0.3	0.7	0.8	0.5	0.6	2.4	2.7	2.3	2.5
	2.7	2.5	2.6	3.2	2.2	2.6	2.6	2.0	2.5	2.5	2.4	2.6				
完全失業率 %	2.5	2.5	2.6	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6
譲渡性預金金利 %	0.385	0.391	0.417	0.582	0.667	0.917	0.917	0.917	1.167	1.167	1.167	1.167	0.157	0.245	0.855	1.167
10年物国債利回り %	1.410	1.600	1.843	2.233	2.520	2.771	2.771	2.790	3.019	3.033	3.024	3.041	1.082	1.772	2.713	3.029
経常収支 兆円	7.4	8.9	8.3	9.8	3.1	4.8	4.8	4.5	4.1	4.8	5.4	6.1	30.0	34.5	17.2	20.4
対名目GDP比	4.4	5.4	4.9	5.8	1.9	2.8	2.8	2.6	2.4	2.7	3.1	3.4	4.7	5.2	2.5	2.9
原油価格 ドル/バレル	65.88	67.75	62.04	77.84	102.00	92.00	82.00	75.96	75.96	75.96	75.96	74.24	76.94	68.38	87.99	75.53
円ドル為替レート	144.5	147.4	154.1	156.8	158.1	157.4	156.7	154.0	153.0	152.0	151.0	150.0	152.5	150.7	156.5	151.5
一般政府累積赤字 兆円	1299.8	1311.5	1323.3	1335.0	1351.4	1367.6	1384.5	1401.6	1419.6	1437.9	1456.3	1474.6	1288.0	1335.0	1401.6	1474.6
	0.9	0.9	0.9	0.9	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	2.1	3.6	5.0	5.2
	2.5	2.9	3.3	3.6	4.0	4.3	4.6	5.0	5.0	5.1	5.2	5.2				
対GDP比 %	195.5	197.1	197.0	197.1	197.9	198.1	198.3	198.5	198.7	199.1	199.6	200.2	200.4	199.3	205.8	208.3
財政バランス 兆円	-29.6	-27.2	-27.8	-34.7	-48.6	-47.7	-50.9	-52.6	-55.5	-56.7	-57.0	-57.0	-37.0	-29.8	-50.0	-56.6

- 消費者物価の上昇率が2026年度後半に加速
- 実質賃金のプラス反転は一旦頓挫し、回復は2027年度

出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

日本経済予測結果表：四半期実質国内総支出

	四半期												年度			
	25Q2	25Q3	25Q4	26Q1	26Q2	26Q3	26Q4	27Q1	27Q2	27Q3	27Q4	28Q1	2024	2025	2026	2027
民間最終消費支出	307.3	308.9	309.0	309.8	310.1	310.5	310.9	311.2	311.9	312.5	313.5	314.5	305.1	308.8	310.7	313.1
	0.2	0.5	0.0	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.1	1.2	0.6	0.8
	1.3	1.3	1.4	1.0	0.9	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.8	1.0				
民間住宅	23.1	21.2	22.3	22.4	22.4	22.4	22.5	22.3	22.4	22.4	22.3	22.3	23.1	22.3	22.4	22.3
	0.0	-8.1	5.0	0.5	-0.1	0.1	0.1	-0.5	0.3	-0.2	-0.3	0.0	-0.7	-3.5	0.7	-0.3
	1.4	-7.9	-4.0	-3.1	-3.1	5.6	0.7	-0.3	0.0	-0.3	-0.7	-0.2				
民間企業設備	106.2	106.1	107.6	107.9	108.3	108.5	108.8	109.1	109.6	110.3	111.0	111.8	104.5	107.0	108.7	110.7
	1.2	-0.1	1.4	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.5	0.6	0.7	0.7	0.8	2.4	1.6	1.8
	2.1	1.2	3.2	2.8	1.9	2.2	1.2	1.1	1.3	1.6	2.0	2.4				
民間在庫変動	1.4	0.5	-1.3	-1.7	-1.2	-0.5	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	0.2	-0.3	-0.5	-0.2
政府最終消費支出	122.1	122.2	122.7	122.8	123.1	123.3	123.5	123.7	124.0	124.2	124.4	124.7	121.5	122.5	123.4	124.3
	0.7	0.1	0.4	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	2.3	0.8	0.8	0.7
	0.5	0.6	0.9	1.2	0.8	0.9	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8				
公的固定資本形成	27.7	27.4	27.3	27.7	27.8	27.9	28.0	28.1	28.1	28.2	28.3	28.4	27.7	27.5	27.9	28.3
	0.4	-1.1	-0.2	1.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	-0.6	1.5	1.1
	0.6	-1.7	-1.6	0.5	0.5	1.9	2.4	1.3	1.2	1.1	1.1	1.0				
公的在庫変動	-0.11	-0.05	-0.07	-0.09	0.01	-0.02	-0.02	-0.03	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.05	-0.07	-0.01	-0.02
財貨・サービスの純輸出	5.9	4.4	4.6	6.0	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.8	5.7	5.2	3.7	3.6
財貨・サービスの輸出	107.8	106.1	106.2	108.1	105.9	106.5	107.1	107.5	108.1	108.6	109.2	110.1	105.0	107.0	106.7	109.0
	1.6	-1.6	0.2	1.7	-2.0	0.5	0.6	0.4	0.5	0.5	0.6	0.8	2.7	1.9	-0.3	2.1
	5.1	1.1	-0.3	1.9	-1.7	0.4	0.8	-0.5	2.1	2.0	2.0	2.4				
財貨・サービスの輸入	101.8	101.7	101.6	102.1	102.3	102.7	103.4	103.9	104.4	105.1	105.7	106.4	99.3	101.8	103.1	105.4
	1.1	-0.2	0.0	0.5	0.2	0.4	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5	0.7	4.0	2.6	1.2	2.3
	4.6	1.2	3.2	1.4	0.5	1.1	1.7	1.7	2.1	2.3	2.2	2.4				
国内総生産	593.1	589.4	590.7	593.7	593.0	594.7	596.0	596.7	598.3	599.6	601.7	604.0	587.1	591.9	595.1	600.9
	1.4	-2.5	0.8	2.1	-0.4	1.1	0.9	0.5	1.0	0.9	1.4	1.5	0.5	0.8	0.5	1.0
	0.3	-0.6	0.2	0.5	-0.1	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.4				
	1.8	0.5	0.4	0.4	0.0	0.9	0.9	0.5	0.9	0.8	1.0	1.2				
内需寄与度	0.2	-0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.3	0.8	1.0	0.8	1.0
内、民需	0.1	-0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.8	0.6	0.8
内、公需	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	0.1	0.2	0.2
外需寄与度	0.1	-0.3	0.0	0.3	-0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.3	-0.2	-0.3	0.0
国内総所得	585.8	583.2	585.0	587.1	572.3	579.8	580.6	582.2	583.5	585.8	588.5	591.4	577.6	585.5	578.7	587.3
	3.6	-1.8	1.2	1.4	-9.7	5.4	0.5	1.1	0.9	1.6	1.9	2.0	-0.4	1.4	-1.2	1.5
	0.9	-0.4	0.3	0.4	-2.5	1.3	0.1	0.3	0.2	0.4	0.5	0.5				
	2.3	1.0	1.0	1.1	-2.3	-0.6	-0.8	-0.8	2.0	1.0	1.4	1.6				

メモ：暦年ベース
実質GDP成長率

2026年：+0.6%(+0.7%)

2027年：+0.8%(+1.3%)

カッコ内数値は前回予測

IMF4月予測：日本の実質GDP成長率

2026年：+0.7%(+0.7%)

2027年：+0.6%(+0.6%)

カッコ内数値は前回予測

APIRの日本経済予測はIMFより、26年は-0.1%ポイント低め、27年は+0.2%ポイント高め

出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

関西経済の現況と予測

Kansai Economic Insight
Quarterly
No.79

マクロ経済分析プロジェクト Contributors

稲田義久・入江啓彰・小川亮

野村亮輔・劉子瑩・権明・古山健大

蕨野真紀・植田孟徳・奥田正典・川部琢磨



【QRコードより
本予測説明動画が視聴可能予定】

関西経済の現況：要旨

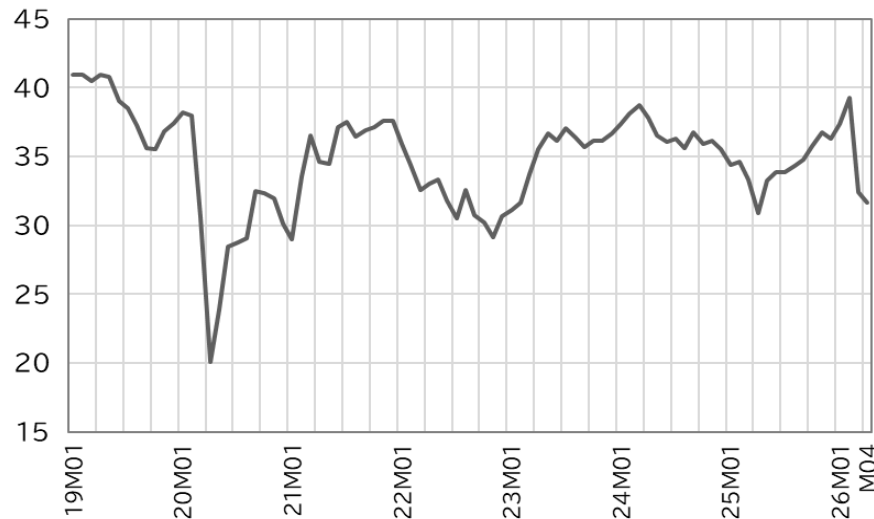
緩やかな成長が続くも、先行きに強い不透明感

-物価高や中東情勢の悪化など下振れリスクへの警戒強まる-

- **関西経済は、緩やかな成長を維持しているものの、力強さを欠いている。** 実質賃金のプラス転換や世界的な半導体需要に牽引された輸出の好調といった下支え要因はあるが、物価高や中東情勢悪化への警戒感が強まっており、弱含みの動きもみられる
- **関西の実質GRP成長率を2026年度+0.7%、27年度+1.0%と予測するが、これは** 足下で関西経済が直面しているリスクの影響が限定的にとどまり、早期に収束することを前提としている。景気下押しリスクとして、①中東紛争の長期化に伴う原油高、②サプライチェーン混乱に伴う原材料の調達難とコスト高、③中国経済の構造的な減速に伴う外需の減速などが挙げられる

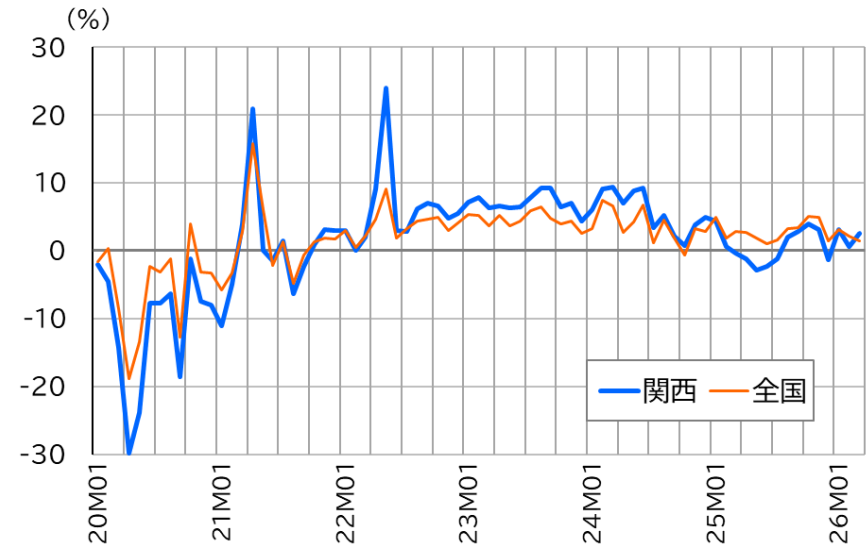
消費者センチメント・大型小売店販売

- 26年1-3月期の消費者態度指数は36.4となった。前期比+0.1ポイントと、3四半期連続で改善した。しかし3月には中東情勢の緊迫化や原油・物価高への懸念から、前月比-6.9ポイントと急激に悪化した。下落幅は、コロナ禍で緊急事態宣言が発出された2020年4月以来の大きさとなった
- 1-3月期の大型小売店販売額は1兆353億円だった。前年同期比+2.1%で、3四半期連続の前年比プラス。内訳は、百貨店同+2.6%、スーパー同+1.8%だった。百貨店を中心とした中国人客の減少や消費者の節約志向が重石となる一方で、食料品などの価格上昇が販売額を底上げした



消費者態度指数(センチメント)

出所：内閣府『消費動向調査』、季節調整はAPIRによる。

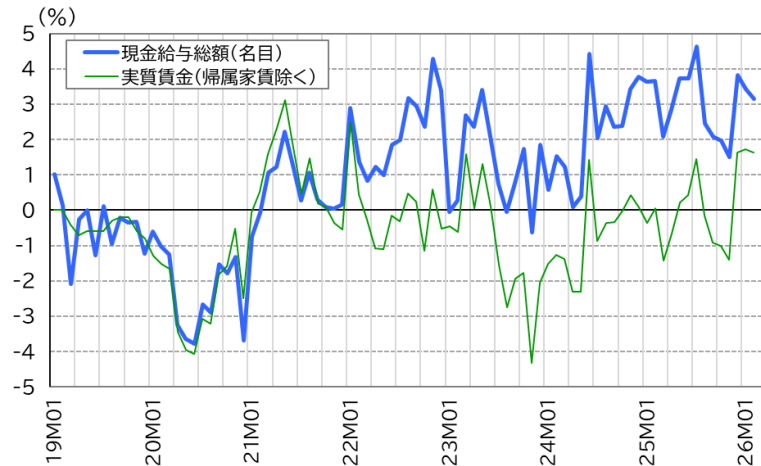


大型小売店等販売状況(前年同月比)

出所：近畿経済産業局『百貨店・スーパー販売状況』

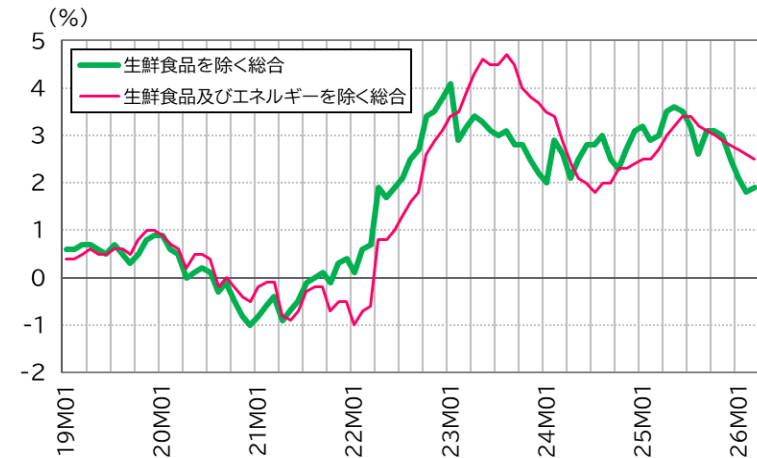
所得・物価

- 関西の現金給与総額は、26年1月前年同月比+3.4%、2月同+3.1%と堅調な伸びを示し、27カ月連続で前年を上回った。政策効果によるエネルギー価格の抑制もあり、物価変動の影響を除いた実質賃金は、25年12月以降3カ月連続のプラスで推移している
- 1-3月期の消費者物価指数(コア、2020年平均=100)は111.7で、前年同期比+1.9%と18四半期連続で上昇した。1月は前年同月比+2.1%、2月は同+1.8%、3月は同+1.9%だった。前述した政策効果により足下で上昇ペースに鈍化がみられる。しかし、中東情勢の緊迫化に伴う原油高を背景に、先行きは再加速が見込まれる



現金給与総額と実質賃金

出所：厚生労働省「毎月勤労統計調査」を加工

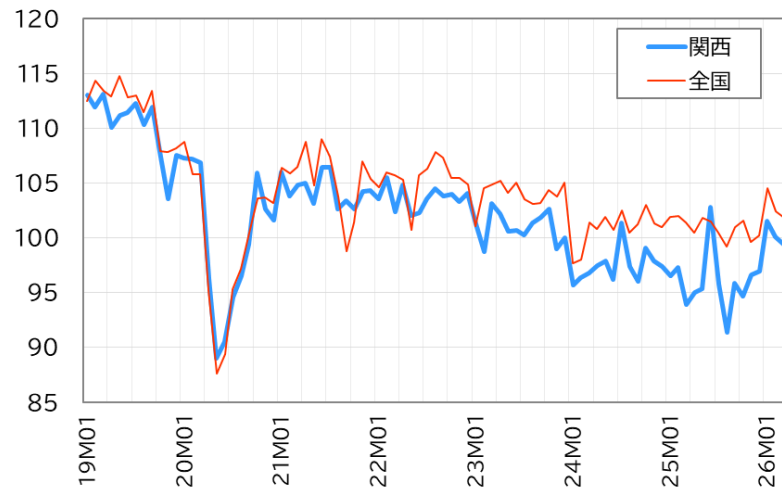


関西消費者物価総合指数(前年同月比)

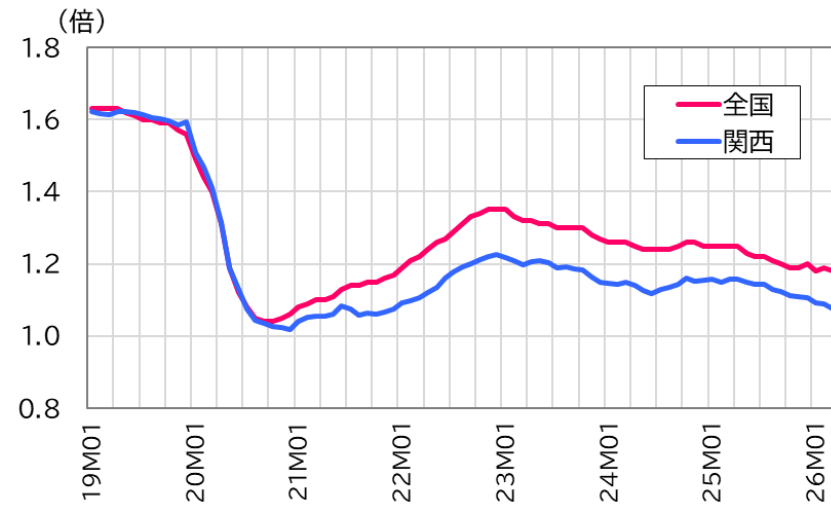
出所：総務省統計局「消費者物価指数」

生産・雇用

- 関西の26年1-3月期の生産指数(季節調整値、2020年=100)は100.3で、前期比+4.4%と2四半期連続で上昇した。20年10-12月期以来となる高い伸びとなった。化学や情報通信機械が増産に寄与した。月次ベースでみると、1月は前月比+4.6%と高い伸びとなったが、2月・3月は同-1.4%、-0.7%と2カ月連続で前月を下回っており、足下では一服感がみられる
- 1-3月期の有効求人倍率(季節調整値)は1.09倍だった。前期比-0.02ポイントとなり、三四半期連続の低下となった。人手不足が続いている一方で、物価高や人件費高騰に対する懸念から、企業の採用姿勢には慎重さがみられる



鉱工業生産指数

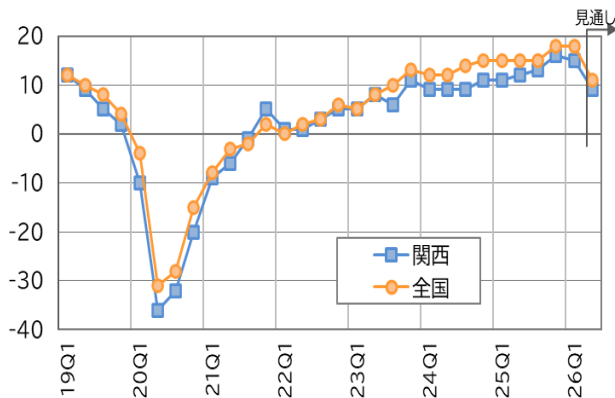


有効求人倍率

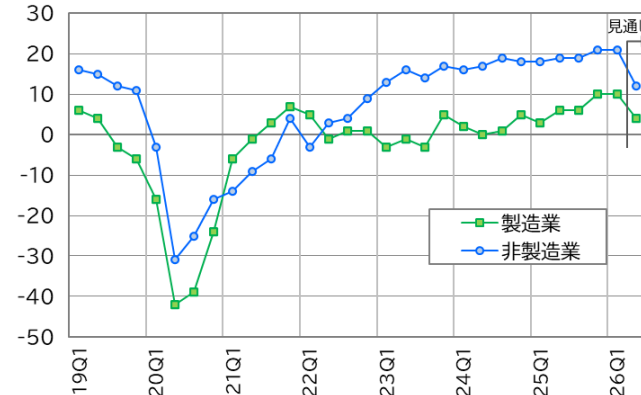
景況感・設備投資計画（日銀短観）

- 日銀短観3月調査によると、関西の業況判断DI(全規模・全産業)プラス15だった。前回調査から-1ポイントと小幅低下したものの、18四半期連続のプラスで、高水準を維持している。業種別にみると、製造業はプラス10、非製造業はプラス21で、ともに前回調査から横ばいだった
- 関西の26年度設備投資計画(全規模・全産業ベース)は、前年度比+4.7%となった。25年度(同+10.6%)に比べると伸び率は縮小するが、増加基調を維持する。業種別では、製造業が同+4.6%、非製造業が同+4.7%となった

全規模・全産業ベース



業種別



		(計画)	25年度	26年度
関西	全産業		10.6	4.7
	製造業		4.5	4.6
	非製造業		15.4	4.7
全国	全産業		7.9	1.3
	製造業		9.9	2.6
	非製造業		6.8	0.6

短観：企業業況判断DIの推移

注：*は見通しであることを示す。

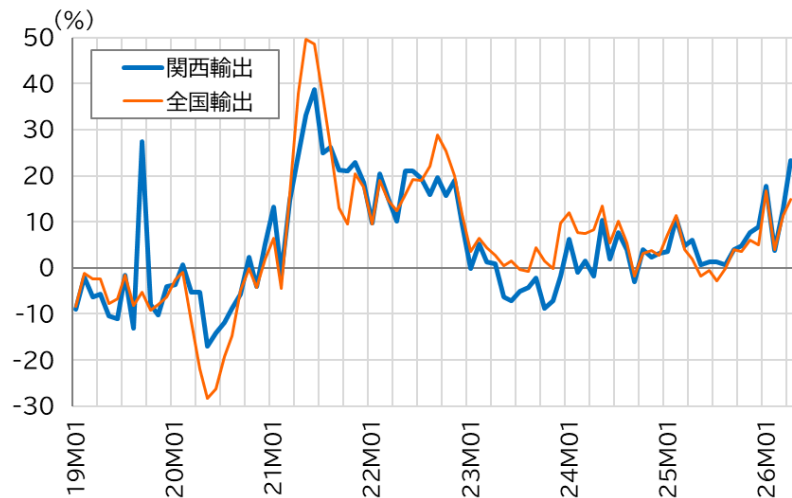
出所：日本銀行大阪支店『全国企業短期経済観測調査(近畿地区)』

設備投資計画：前年度比(%)

出所：日本銀行大阪支店『全国企業短期経済観測調査(近畿地区)』

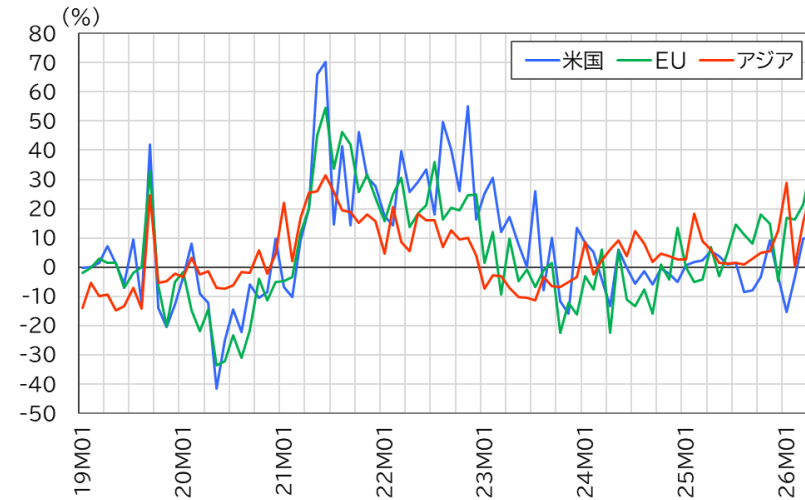
対外部門：財貿易

- 26年1-3月期の輸出額は5兆9,901億円で前年同期比は+11.2%と9四半期連続のプラス。半導体等電子部品の好調が続いている。足下4月は前年同月比+23.4%と高い伸びとなった
- 1-3月期の輸出を地域別にみると、対米国は前年同期比-2.2%と2四半期ぶりに前年を下回った。一方、対EUは同+18.5%で4四半期連続のプラス、対アジアも同+14.1%で9四半期連続のプラスとなった
- 輸入額は5兆1,545億円で、同+6.5%と2四半期連続の増加。貿易収支は+8,356億円で14四半期連続の黒字だった



関西の輸出入と貿易収支

出所：大阪税関『近畿圏貿易概況』

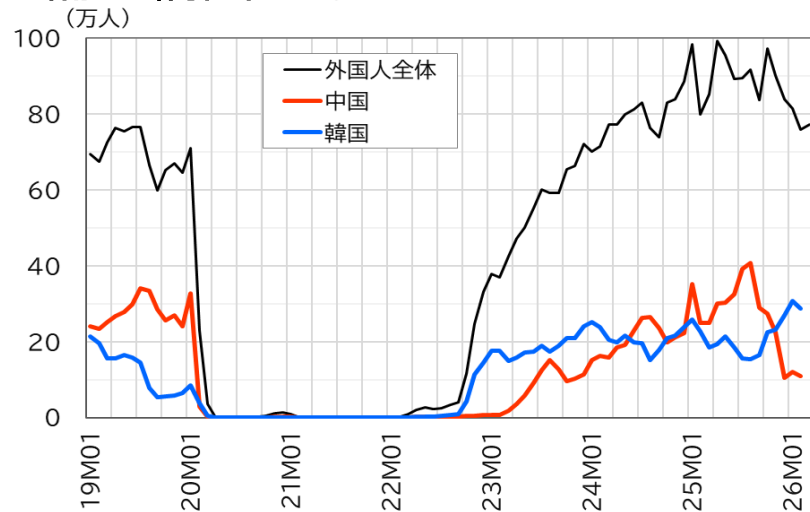


地域別輸出(前年同月比)

出所：大阪税関『近畿圏貿易概況』

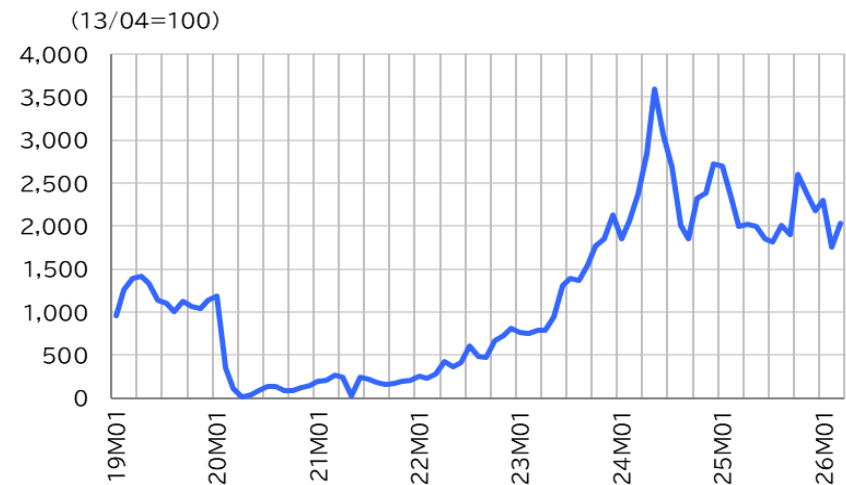
対外部門：インバウンド

- 2026年1-3月期に関西経由で入国した外国人客数は234.7万人となった。前年同期比で-10.9%と21年10-12月期以来、約4年ぶりにマイナスに転じた。特に中国人客の落ち込みが顕著であり、足下の2月はピーク時（昨年8月）の4分の1程度にまで減少している
- 1-3月期の百貨店免税売上高は前年同期比-13.5%となり、4四半期連続で前年を下回った。月次では、1月は前年同月比-14.9%、2月は同-24.8%と、4カ月連続で前年を下回っていたが、3月は同+1.7%と5カ月ぶりにプラスに転じた。中国人客の大幅な減少を、円安を追い風とした他国客の高額消費が補う構図となっている



関空経由訪日外国人人数

出所：出入国在留管理庁『出入国管理統計』

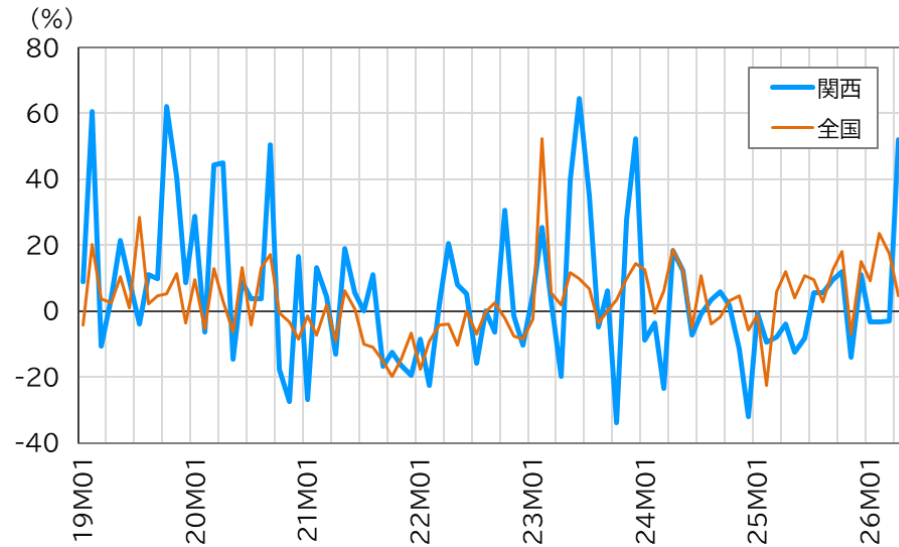


百貨店免税売上

出所：日本銀行大阪支店『百貨店免税売上(関西地域)』

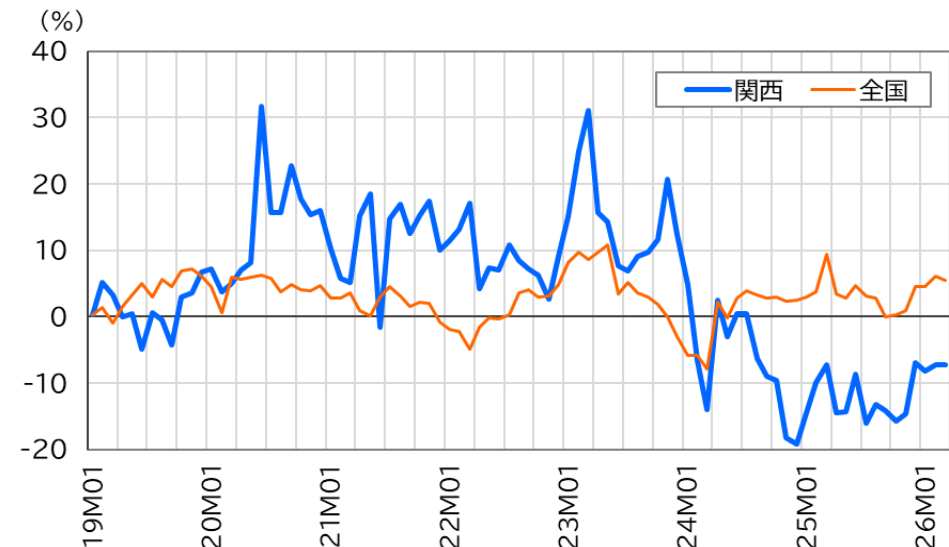
公共工事

- 26年1-3月期の関西の公共工事は、請負金額・出来高ともに前年比マイナスとなった。全国では前年比増が続いているのに対し、関西は相対的に弱含みの動きとなっている
- 26年1-3月期の関西の公共工事請負金額は、前年同期比-3.1%と3四半期ぶりに前年を下回った。全国は同+17.3%の大幅増で4四半期連続のプラス。公共工事出来高は、関西が同-7.6%と9四半期連続で減少したのに対し、全国は同+5.3%と8四半期連続で増加している



公共工事請負金額(前年同月比)

出所：東日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』

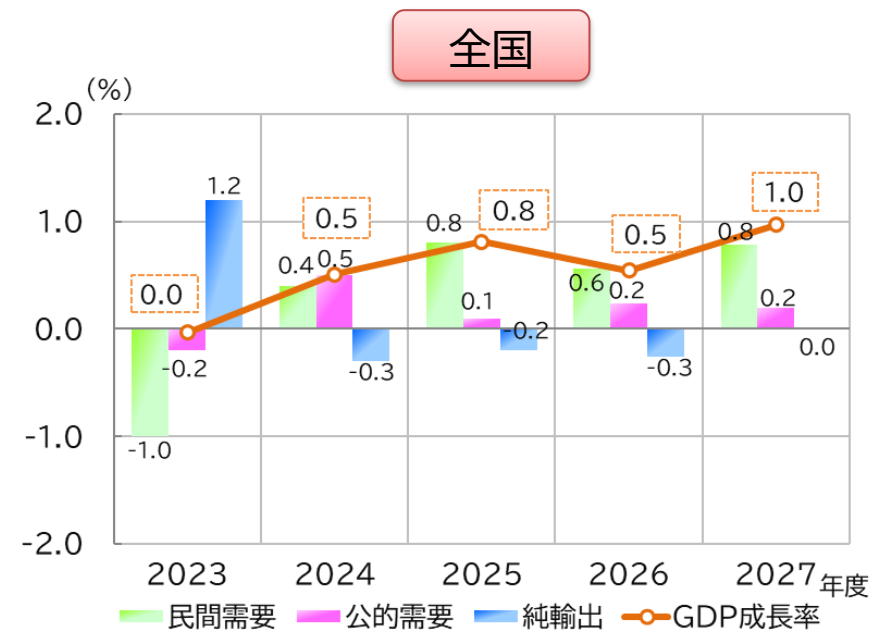
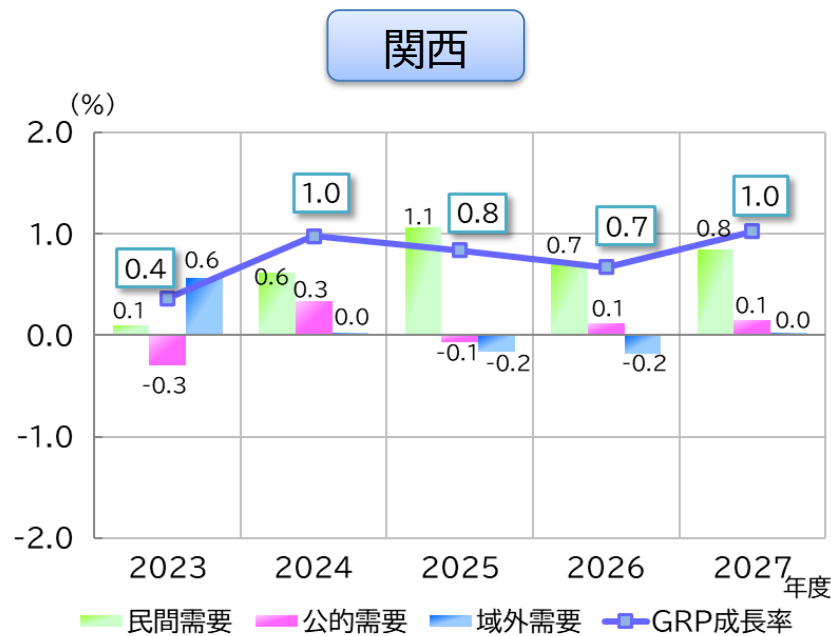


公共工事出来高(前年同月比)

出所：国土交通省「建設総合統計」

実質GRP成長率の予測結果と項目別寄与度

- 関西の実質GRP成長率を、**2026年度+0.7%、27年度+1.0%と予測**する。中東情勢の不安定化や原油高による景気下押し圧力が早期に収束するとの前提のもと、景気は緩やかな回復が続くと見ている
- 需要項目別に見ると、民間需要は26年度+0.7%ポイント、27年度+0.8%ポイントと、成長を主導する。民間消費、企業設備投資とも底堅く推移する。公的需要は、26年度・27年度とも+0.1%ポイントと成長を小幅に押し上げる。域外需要は、26年度-0.2%ポイントと成長下押し要因となり、27年度の寄与は限定的となる



前回予測からの修正・日本経済予測との比較

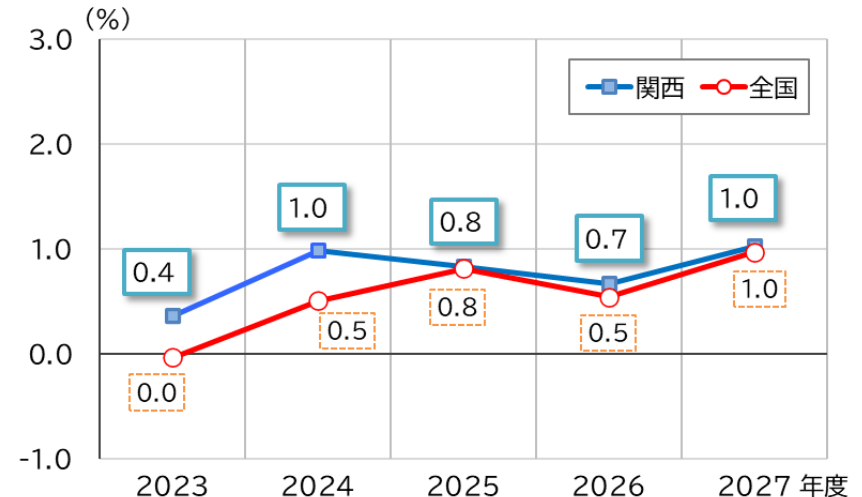
- 前回予測(26年3月3日公表)に比べて、
 - ・ 26年度：-0.4%ポイント **下方修正** 27年度：-0.2%ポイント **下方修正**
- 下方修正の要因は、中東情勢の悪化に伴う資源・原材料の調達難やコスト高であり、これが当面の民間消費や輸出への強い下押し圧力になる。
- 日本経済予測と比較すると、関西と全国の動向に特段の差異はない。いずれも民間需要が成長を下支える一方で、外需が伸び悩むという形を見込んでいる

前回予測（3月）からの修正

	26年度	27年度
GRP 成長率	-0.4%pt	-0.2%pt
民間需要	-0.3%pt	-0.3%pt
公的需要	修正なし	修正なし
域外需要	-0.1%pt	+0.1%pt

注：四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。

日本経済予測との対比



関西経済予測結果表(2026年5月27日予測結果)

年度	関西経済					日本経済				
	2023	2024	2025	2026	2027	2023	2024	2025	2026	2027
民間最終消費支出	▲ 0.1	0.8	1.3	0.9	1.0	▲ 1.0	0.1	1.2	0.6	0.8
民間住宅	6.7	2.7	▲ 3.5	0.4	▲ 0.5	1.8	▲ 0.7	▲ 3.5	0.7	▲ 0.3
民間企業設備	1.4	2.3	3.2	1.7	2.1	▲ 0.1	0.8	2.4	1.6	1.8
政府最終消費支出	▲ 1.9	1.6	0.7	0.7	0.7	▲ 0.8	2.3	0.8	0.8	0.7
公的固定資本形成	2.1	2.5	▲ 3.0	0.3	1.2	▲ 0.1	0.1	▲ 0.6	1.5	1.1
輸出	0.6	2.4	1.8	0.3	2.2	3.1	2.7	1.9	▲ 0.3	2.1
輸入	▲ 0.3	2.7	2.6	1.1	2.4	▲ 2.2	4.0	2.6	1.2	2.3
実質域内総生産	0.4	1.0	0.8	0.7	1.0	▲ 0.0	0.5	0.8	0.5	1.0
民間需要(寄与度)	0.1	0.6	1.1	0.7	0.8	▲ 1.0	0.4	0.8	0.6	0.8
公的需要(寄与度)	▲ 0.3	0.3	▲ 0.1	0.1	0.1	▲ 0.2	0.5	0.1	0.2	0.2
域外需要(寄与度)	0.6	0.0	▲ 0.2	▲ 0.2	0.0	1.2	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.0
名目域内総生産	5.9	4.7	4.2	1.7	4.2	4.7	3.7	4.2	1.7	3.9
GRPデフレータ	5.5	3.7	3.4	1.0	3.1	4.8	3.2	3.4	1.1	2.9
消費者物価指数	1.8	2.5	2.8	2.4	2.5	2.8	2.6	2.8	2.4	2.4
鉱工業生産指数	▲ 3.6	▲ 1.9	▲ 0.2	0.6	1.1	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 0.2	0.4	1.1
完全失業率	2.9	2.7	2.8	2.9	2.8	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6

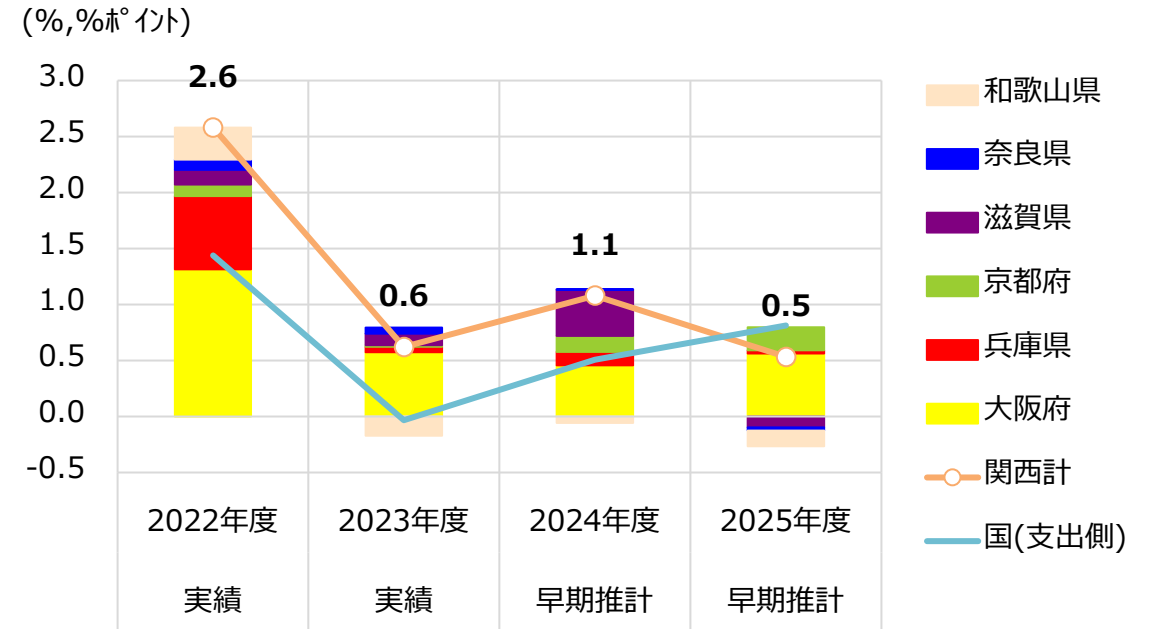
(注)単位%、完全失業率以外は前年度比伸び率。関西経済の2023-25年度は実績見通し、26-27年度は予測値。

日本経済の25年度までは実績値、26年度以降は「第158回景気分析と予測」による予測値。

府県別GRPの早期推計：2023-25年度

- 関西2府4県の実質GRP(生産側)早期推計によると、**実質成長率は2024年度+1.1%、25年度+0.5%**
- **2024年度**は大阪府、滋賀県が、**25年度**は京都府、大阪府がそれぞれ成長を牽引

	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	和歌山県	関西計	国(支出側)
モデルの推計期間	06-23	06-23	06-23	06-23	06-22	06-23		
●モデルの適合度								
自由度修正決定係数	0.75	0.77	0.88	0.87	0.96	0.82	-	
GRP水準のMAPE(%)	1.04	1.62	1.00	1.39	0.79	3.83	-	
GRP成長のMAPE(%)	1.54	2.17	1.87	1.78	1.29	3.43	-	
<2019-2023年度>								
GRP水準のMAPE(%)	0.92	1.28	1.00	0.72	0.88	0.79	-	
GRP成長のMAPE(%)	1.22	1.60	2.01	1.58	1.46	1.53	-	
●実質GRP(10億円)								
FY2020(実績)	39,105	21,584	10,251	6,836	3,636	3,484	84,895	554,311
FY2021(実績)	40,094	22,306	10,754	7,018	3,754	3,680	87,606	576,080
FY2022(実績)	41,246	22,878	10,844	7,133	3,835	3,930	89,865	584,362
FY2023(奈良以外は実績)	41,762	22,921	10,857	7,225	3,883	3,775	90,423	584,166
FY2024(早期推計)	42,175	23,031	10,984	7,599	3,887	3,723	91,399	587,135
FY2025(早期推計)	42,689	23,057	11,172	7,510	3,860	3,596	91,884	591,911
●実質成長率(%)								
FY2021(実績)	2.5	3.3	4.9	2.7	3.2	5.6	3.2	3.9
FY2022(実績)	2.9	2.6	0.8	1.6	2.2	6.8	2.6	1.4
FY2023(奈良以外は実績)	1.2	0.2	0.1	1.3	1.3	-3.9	0.6	0.0
FY2024(早期推計)	1.0	0.5	1.2	5.2	0.1	-1.4	1.1	0.5
FY2025(早期推計)	1.2	0.1	1.7	-1.2	-0.7	-3.4	0.5	0.8
●実質成長率(%ポイント)：寄与度								
FY2021(実績)	1.2	0.9	0.6	0.2	0.1	0.2	3.2	
FY2022(実績)	1.3	0.7	0.1	0.1	0.1	0.3	2.6	
FY2023(奈良以外は実績)	0.6	0.0	0.0	0.1	0.1	-0.2	0.6	
FY2024(早期推計)	0.5	0.1	0.1	0.4	0.0	-0.1	1.1	
FY2025(早期推計)	0.6	0.0	0.2	-0.1	0.0	-0.1	0.5	



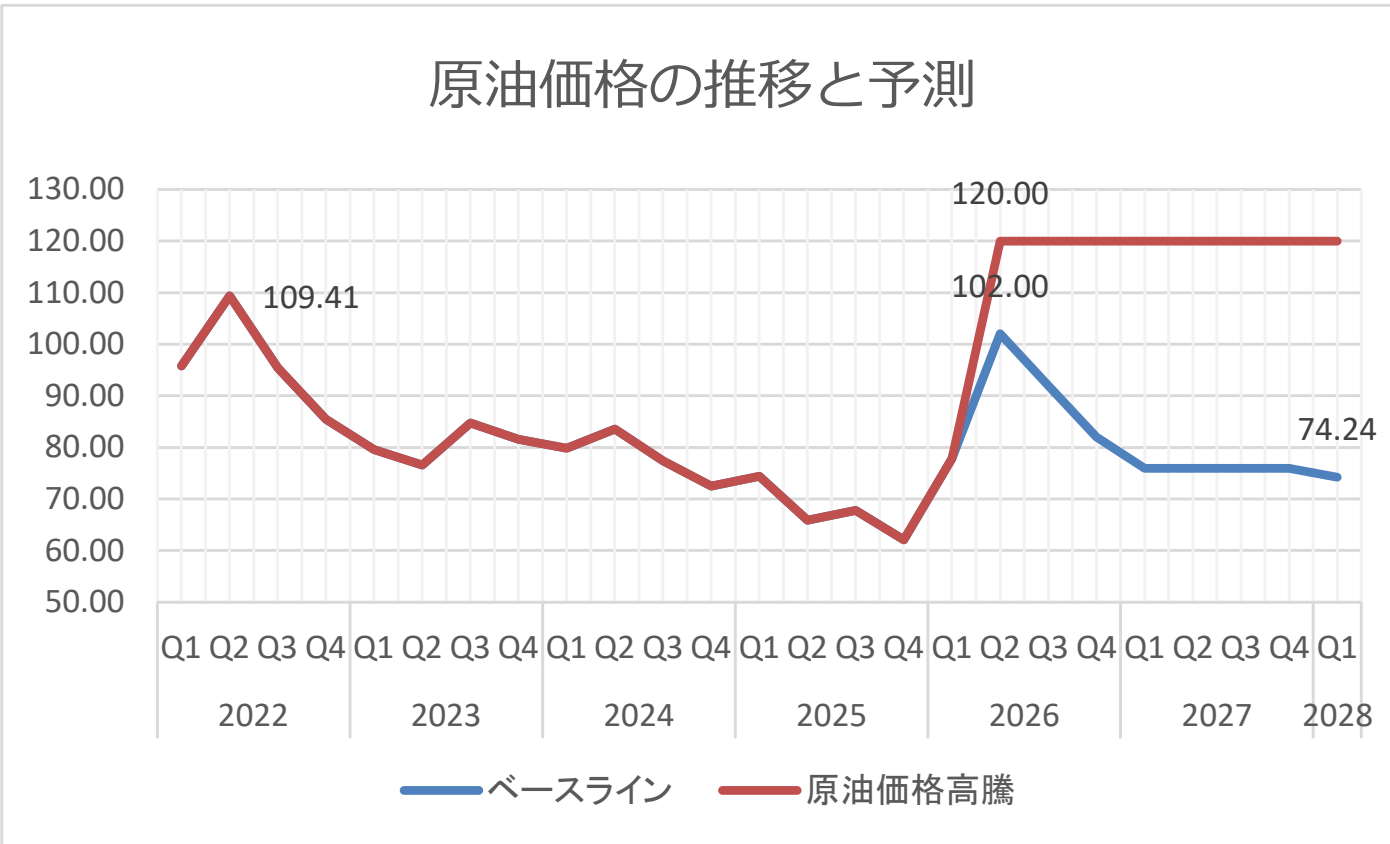
注1) MAPEはMean Absolute Percentage Error (平均絶対誤差率) の略。

注2) 実質GRPは生産側の連鎖価格表示。実質GDPは支出側の連鎖価格表示。

注3) 実質GRPについては、2011年度から21年度までが平成27暦年連鎖価格表示。2006年度から10年度は平成23暦年連鎖価格表示を前者に接続。

シミュレーション：ホルムズ海峡封鎖の長期化

原油価格の推移と予測



出所：APIR『第158回 景気分析と予測』

- ベースラインの世界原油価格の想定は、26年4-6月期に102ドルに高騰し、27年1-3月期に76ドルに低下、以降ほぼ同水準
- 25年10-12月期の実績(62.04ドル)と比較すると、26年4-6月期は+40.0ドル、28年1-3月期は+12.2ドル。今回のショックで原油価格に+10ドル程度の水準上昇が起こる
- 「ホルムズ海峡封鎖の長期化」のシミュレーションを行った。ホルムズ海峡の事実上の封鎖により、26年4-6月期に120ドルに高騰し、予測期間は同水準で高止まる。ベースラインに比して、26年度で+36ドル、27年度で+59ドル程度の上昇
- ロシアのウクライナ侵攻時には原油価格は22年1-3月期95.77ドル、4-6月期109.41ドルに高騰。21年10-12月期78.36ドルと比較して、1-3月期は+17.4ドル、4-6月期は+31.1ドルの上昇。今回のシミュレーションは、22年4-6月期を上回る原油価格を想定

シミュレーション：ホルムズ海峡封鎖の長期化

【実物経済に与える影響】

	四半期										年度		
	25Q4	26Q1	26Q2	26Q3	26Q4	27Q1	27Q2	27Q3	27Q4	28Q1	2025	2026	2027
民間最終消費支出													
1. ベース (兆円)	309.0	309.8	310.1	310.5	310.9	311.2	311.9	312.5	313.5	314.5	308.8	310.7	313.1
2. 原油価格高止まり (兆円)	309.0	309.8	310.1	310.5	310.9	311.1	311.8	312.2	313.1	314.0	308.8	310.7	312.8
乖離幅 (兆円)	0.000	0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	-0.4	-0.5	0.0	-0.0	-0.3
乖離率 (%)	0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	0.0	-0.0	-0.1
民間住宅													
1. ベース (兆円)	22.3	22.4	22.4	22.4	22.5	22.3	22.4	22.4	22.3	22.3	22.3	22.4	22.3
2. 原油価格高止まり (兆円)	22.3	22.4	22.4	22.4	22.4	22.3	22.3	22.2	22.1	22.0	22.3	22.4	22.2
乖離幅 (兆円)	0.000	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	0.0	-0.0	-0.2
乖離率 (%)	0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.2	-0.4	-0.6	-0.8	-1.1	0.0	-0.1	-0.7
民間企業設備													
1. ベース (兆円)	107.6	107.9	108.3	108.5	108.8	109.1	109.6	110.3	111.0	111.8	107.0	108.7	110.7
2. 原油価格高止まり (兆円)	107.6	107.9	108.3	108.5	108.8	109.0	109.5	110.0	110.7	111.4	107.0	108.6	110.4
乖離幅 (兆円)	0.000	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.2	-0.2	-0.3	-0.4	0.0	-0.0	-0.3
乖離率 (%)	0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	-0.4	0.0	-0.0	-0.2
財貨・サービスの輸出													
1. ベース (兆円)	106.2	108.1	105.9	106.5	107.1	107.5	108.1	108.6	109.2	110.1	107.0	106.7	109.0
2. 原油価格高止まり (兆円)	106.2	108.1	105.9	106.5	107.1	107.4	107.8	108.1	108.5	109.1	107.0	106.7	108.4
乖離幅 (兆円)	0.000	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	-0.3	-0.5	-0.8	-1.0	0.0	-0.0	-0.7
乖離率 (%)	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	-0.3	-0.5	-0.7	-0.9	0.0	-0.0	-0.6
財貨・サービスの輸入													
1. ベース (兆円)	101.6	102.1	102.3	102.7	103.4	103.9	104.4	105.1	105.7	106.4	101.8	103.1	105.4
2. 原油価格高止まり (兆円)	101.6	102.1	102.3	102.7	103.3	103.8	104.4	105.0	105.5	106.1	101.8	103.0	105.2
乖離幅 (兆円)	0.000	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	0.0	-0.0	-0.2
乖離率 (%)	0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	0.0	-0.0	-0.2
国内総生産													
1. ベース (兆円)	590.7	593.7	593.0	594.7	596.0	596.7	598.3	599.6	601.7	604.0	591.9	595.1	600.9
2. 原油価格高止まり (兆円)	590.7	593.7	593.0	594.7	595.9	596.4	597.7	598.6	600.3	602.1	591.9	595.0	599.7
乖離幅 (兆円)	0.000	0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.3	-0.6	-1.0	-1.4	-1.9	0.0	-0.1	-1.2
乖離率 (%)	0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.2	-0.3	0.0	-0.0	-0.2
実質可処分所得													
1. ベース (兆円)	297.7	301.6	308.7	313.6	319.3	320.7	325.3	328.5	332.0	334.2	298.3	315.6	330.0
2. 原油価格高止まり (兆円)	297.7	301.6	308.7	313.4	319.0	320.1	324.5	327.4	330.6	332.5	298.3	315.3	328.8
乖離幅 (兆円)	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.8	-1.1	-1.4	-1.7	0.0	-0.3	-1.2
乖離率 (%)	0.00	0.0	-0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.2	-0.3	-0.4	-0.5	0.0	-0.1	-0.4

- 原油価格が120ドルの高水準で推移した場合のシミュレーション結果をみれば、
- 実物経済への影響は、**実質GDP**は27年度に**-1.2兆円、-0.2%減少**
- **実質可処分所得**が-1.2兆円、-0.4%減少するため、**実質民間最終消費支出**は**-0.34兆円、-0.1%減少**

出所：APIR 『第158回 景気分析と予測』

シミュレーション：ホルムズ海峡封鎖の長期化

【物価に与える影響】

	四半期										年度		
	25Q4	26Q1	26Q2	26Q3	26Q4	27Q1	27Q2	27Q3	27Q4	28Q1	2025	2026	2027
コア消費者物価指数 (2020=100)													
1. ベース	112.3	111.8	113.2	113.9	114.8	115.5	116.6	117.1	117.4	117.4	111.7	114.4	117.1
2. 原油価格高止まり	112.3	111.8	113.2	113.9	114.9	115.7	116.9	117.5	118.0	118.2	111.7	114.4	117.6
乖離幅	0.000	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.6	0.8	0.0	0.1	0.5
乖離率 (%)	0.00	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.5	0.7	0.0	0.1	0.5
国内企業物価指数 (2020=100)													
1. ベース	127.9	128.9	135.2	138.2	138.4	139.1	138.9	139.6	140.2	141.3	127.5	137.7	140.0
2. 原油価格高止まり	127.9	128.9	135.4	138.7	139.5	140.9	141.7	143.2	144.6	146.7	127.5	138.6	144.1
乖離幅	0.000	0.0	0.2	0.5	1.1	1.9	2.7	3.6	4.5	5.3	0.0	0.9	4.0
乖離率 (%)	0.00	0.0	0.1	0.4	0.8	1.3	2.0	2.6	3.2	3.8	0.0	0.7	2.9
輸出デフレーター (2020=100)													
1. ベース	141.1	144.6	149.5	153.6	155.2	156.7	156.6	158.3	159.5	160.5	138.9	153.8	158.7
2. 原油価格高止まり	141.1	144.6	149.6	153.9	156.2	158.5	159.3	162.0	164.4	166.5	138.9	154.6	163.1
乖離幅	0.000	0.0	0.1	0.4	0.9	1.7	2.7	3.8	4.9	6.0	0.0	0.8	4.4
乖離率 (%)	0.00	0.0	0.1	0.2	0.6	1.1	1.7	2.4	3.1	3.8	0.0	0.5	2.7
輸入デフレーター (2020=100)													
1. ベース	149.0	154.0	182.6	177.1	179.8	179.9	180.0	180.2	180.3	180.3	147.7	179.8	180.2
2. 原油価格高止まり	149.0	154.0	183.5	179.3	183.6	185.0	186.0	186.8	187.4	187.9	147.7	182.9	187.0
乖離幅	0.000	0.0	1.0	2.2	3.8	5.1	6.0	6.6	7.1	7.7	0.0	3.0	6.9
乖離率 (%)	0.00	0.0	0.5	1.3	2.1	2.8	3.3	3.7	3.9	4.2	0.0	1.7	3.8
原油価格 (ドル/バレル)													
1. ベース	62.0	77.8	102.0	92.0	82.0	76.0	76.0	76.0	76.0	74.2	68.4	88.0	75.5
2. 原油価格高止まり	62.0	77.8	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	68.4	120.0	120.0
乖離幅	0.000	0.0	18.0	28.0	38.0	44.0	44.0	44.0	44.0	45.8	0.0	32.0	44.5
乖離率 (%)	0.00	0.0	17.6	30.4	46.3	58.0	58.0	58.0	58.0	61.6	0.0	36.4	58.9

■ 物価に与える影響を見れば、原油価格+58.9%の上昇で、国内企業物価指数は+2.9%、コアCPIは+0.5%上昇

■ 輸出デフレーターは+2.7%、輸入デフレーターは+3.8%、ベースラインより上昇

出所：APIR 『第158回 景気分析と予測』

原油価格高騰シナリオによる関西経済への影響

- **日本経済予測の原油高シミュレーションを関西経済予測に援用**
- **標準予測** : 原油価格は2026年度に100ドル程度まで上昇後、2027年度には75ドル程度へ低下
- **リスクシナリオ** : 中東情勢の長期化等を背景に、2026~27年度を通じて120ドルで高止まり
- **関西モデルでの外生ショック設定は右表の通り**

物価高シナリオでの想定

変数	2026年度	2027年度
全国企業物価指数	+0.6	+2.9
全国消費者物価指数	+0.1	+0.5
全国内需デフレーター	+0.1	+0.4
関西輸出デフレーター	+0.4	+1.8
関西輸入デフレーター	+0.9	+2.6
実質輸出	-0.1	-0.6

注 : 標準予測との乖離率(%)

シミュレーション結果

- 原油高により、全国・関西ともに**物価上昇**と**実質所得悪化**が発生
- **実質民間消費は-0.1%減少**し、家計部門への下押し圧力が確認される
- 一方、実質輸入も-0.6%減少しており、純輸出改善がGRPを一定程度下支え
- **関西の実質GRP下押し幅は-0.1%**と、全国(-0.2%)よりやや小幅
- また、輸入デフレーター(+2.6%)が輸出デフレーター(+1.8%)を上回っており、交易条件は小幅に悪化

	2026	2027
実質GRP(10億円)		
A.ベース	92,689	93,639
B.シミュレーション	92,706	93,530
乖離幅(B-A)	17	-109
乖離率(%)	0.02	-0.12
実質GRP成長率(%)		
A.ベース	0.67	1.03
B.シミュレーション	0.69	0.89
乖離幅(B-A,%pt)	0.02	-0.14
実質民間最終消費支出(10億円)		
A.ベース	50,638	51,136
B.シミュレーション	50,633	51,103
乖離幅(B-A)	-5	-33
乖離率(%)	-0.01	-0.06
実質輸出		
A.ベース	31,098	31,777
B.シミュレーション	31,080	31,580
乖離幅(B-A)	-18	-197
乖離率(%)	-0.06	-0.62
実質輸入		
A.ベース	25,406	26,028
B.シミュレーション	25,361	25,862
乖離幅(B-A)	-45	-166
乖離率(%)	-0.18	-0.64

	2026	2027
消費者物価指数(コア)		
A.ベース	112.7	115.5
B.シミュレーション	112.8	116.0
乖離幅(B-A,%pt)	0.05	0.40
GRPデフレーター		
A.ベース	116.6	120.3
B.シミュレーション	116.5	120.5
乖離幅(B-A,%pt)	-0.08	0.24
輸出デフレーター		
A.ベース	136.3	140.3
B.シミュレーション	136.8	142.9
乖離幅(B-A,%pt)	0.37	1.82
輸入デフレーター		
A.ベース	155.4	155.7
B.シミュレーション	156.7	159.8
乖離幅(B-A,%pt)	0.86	2.64